

ウガンダ月報(2018年7月)

主な出来事

【内政】

- LC1(村長)及びLC2(教区)選挙の実施
- 大統領候補者の年齢制限撤廃等の憲法改正に関する憲法裁判所判決

【外政】

- 南スーダン和平に関するムセベニ・バシール両大統領主導エンテベ会談
- ムセベニ大統領のキール・南スーダン大統領との会談
- 南スーダンへの国連安保理制裁決議に対するムセベニ大統領の発言
- モディ・インド首相のウガンダ訪問
- ムセベニ大統領と習近平国家主席の首脳会談

【経済】

- ソーシャル・メディア及びモバイル・マネーに対する課税
- 軽油及びガソリンに対する課税
- 農産品輸出の増加
- シリング貨の回復
- トウモロコシ価格の下落
- 酪農製品輸出の拡大

【内政】

- 10日、17年ぶりにウガンダのLC1(村長)選挙が開催された。LC1選挙は、有権者が立候補者の後ろに列を作りその数を数えるという方法がとられた。LC1は村落委員会の長であり、同委員会で決定された政策の実施監督を行うほか、村レベルの民事を裁く権利も有している(11日付ニュー・ビジョン紙)。LC1の選挙に続き、27日にはLC2(教区)選挙が実施され、LC1を含む各村の代表者による投票が行われた。LC2は土地問題に関する民事を裁く権利や、LC1で解決出来なかった民事問題を裁決する権利を有する。
- 26日、大統領立候補者の年齢制限の撤廃等を含む2017年憲法改正法の正当性について、憲法裁判所の判決が下された。判決では、(1)大統領立候補者の年齢制限撤廃は合憲、(2)大統領の任期を2回に制限することは違憲、(3)大統領及び国会議員の任期を5年から7年に延長することは違憲であるとした。(27日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙)

【外政】

- 7日、ムセベニ大統領は、バシール・スーダン大統領とともに、キール・南スーダン大統領、マシャール氏(SPLM-IO代表)及び他の反政府勢力をエンテベの大統領官邸に招き、南スーダン和平について議論した。本会談は、キール大統領とマシャール氏の信頼醸成及び両者

の真意を確かめるとともに、南スーダンの新たな統治機構のあり方についての交渉が進んでいない中で、そのギャップを埋めることを目的として、ムセベニ大統領が開催を持ちかけたもの。ムセベニ大統領及びバシール大統領は、キール大統領が大統領職に留まり、現職の2名の副大統領も現職に留まるが、その他の反政府勢力を代表するために他2名の副大統領職を設けること、閣僚数を既存の30から45ポストとすること、国会議員を150人増員することなどを提案した。(9日付ニュー・ビジョン紙)

- 9日朝、ムセベニ大統領と来訪中のキール大統領は南スーダンとウガンダとの間の相互協力について意見交換を行った。会談の詳細は明らかにされていないが、キール大統領は、ムセベニ大統領が7日に、南スーダン和平への道筋を見出すべく南スーダン・スーダン・ウガンダの三首脳会談を開催してくれたことに対し感謝を述べた由。(10日付ニュー・ビジョン紙)
- 13日に国連安保理で南スーダンに対する制裁決議が採択されたことに対し、ムセベニ大統領は、制裁を科すことは、アフリカで一番若い国が取り組んでいる問題を解決する手助けとはならないと苦言を呈し、南スーダンが平和へ向かって行くためには、停戦の監視、治安部門の再構築、信頼のおける選挙の実施が重要であると述べた。(17日付ニュー・ビジョン紙)
- 24日、ウガンダを訪問したモディ・インド首相は、ムセベニ大統領と会談し、貿易、投資及び観光について協議した。両国は、軍事面での協力、外交及び公用旅券保持者の査証の免除、文化交流及び資材試験場の設立に関する4つの覚書に署名した。モディ首相は約200百万米ドルの借款をウガンダに提供する旨発表した他、ウガンダ癌研究センターにガン治療機器3台、東アフリカ共同体の能力向上及び運営のために929,705米ドル、車両88台、太陽光発電灌漑用ポンプ100台、ウガンダ人25人分の奨学金及び10万冊の児童向けの本を無償提供する。(25日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙)
- 27日、BRICS首脳会合のアフリカ・アウトリーチ出席のため南アフリカを訪問したムセベニ大統領は、習近平主席と首脳会談を行った(ムセベニ大統領は東アフリカ共同体(EAC)議長資格で招待されたとされている。)。ムセベニ大統領は、中国が既に送電線設置の支援に同意しているカベカの工業団地(当館注:中国人投資家の資本で造成)において使用する産業用機械を中国から購入するための資金の借入れ、ウガンダの観光促進及びウガンダ航空再建のため中国路線を開設することを要請した。また、中国がウガンダの農産品に対し市場を開放すること、中国におけるガバナンス及び貧困削減プロセスを学ぶため、与党NRM関係者を中国に招待するよう述べた。これに対し習主席は、中国はウガンダとの間で互恵的な協力関係を深める準備ができている旨述べたほか、ムセベニ大統領は長年の貢献により中国・ウガンダ関係のみならず中国・アフリカ関係を促進させたとしてその功績を称えた。(28日付サタデー・ビジョン及び29日付サンデー・ビジョン紙)

【経済】

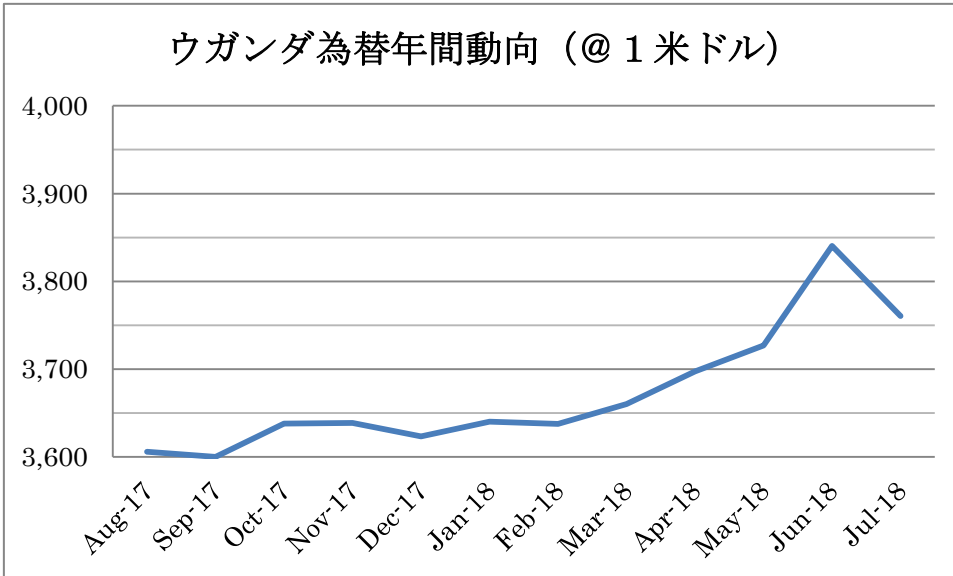
- 7月1日より、ソーシャル・メディアへの課税及びモバイル・マネー取引に対する1%の新しい課税が発効した。これにより、モバイル・マネーを通じた取引額は低下した。(4日付ニュー・

ビジョン紙)

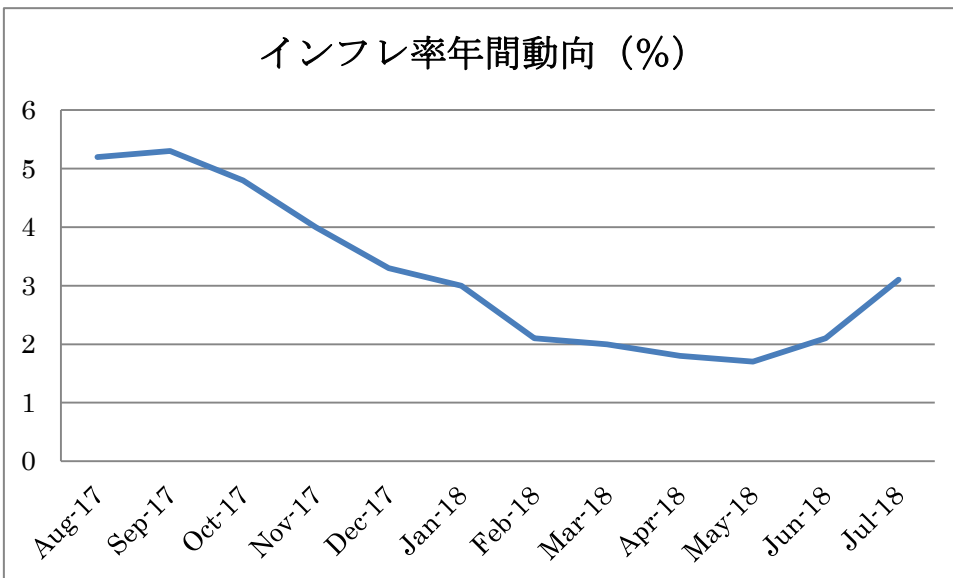
- ウガンダ政府は、道路の維持管理の資金集めのために、軽油及びガソリンに対する100シリングの税金を課した。ある関係者は、「燃料価格の上昇は、ビジネスの費用に悪影響を与えるだろう。これは、域内及び国際市場において、我々の産業が競争することが出来なくなることを意味する。」と述べた。(4日付デイリー・モニター紙)
- ウガンダ財務省の報告によると、ウガンダの農産品輸出額は、2016年の12億米ドルから、2017年には15億米ドルに増加した。ウガンダのコーヒーの輸出額は、2016年の3億7,160米ドルから5億5,530米ドルに増加した。(11日付ニュー・ビジョン紙)
- 7月初頭、シリング貨は1米ドルあたり3,900シリングという水準に逼迫していたが、16日の終値は1米ドルあたり3,718.58シリングにまで回復した。ウガンダ中央銀行関係者は、「シリングは、米ドル需要の弱まり、寄付行為やコーヒー収益によって米ドルが流入したことによる。」と述べている。(18日付デイリー・モニター紙及び25日付ニュー・ビジョン紙)
- トウモロコシ価格の急落を受けて、カサイジャ財務大臣は、「農家はその収入源としても消費食料としても、作物に頼り切っているため、トウモロコシ価格の下落は農民に負の影響を与えた。1キログラムのトウモロコシ粉はたった200シリング(約0.05米ドル)で販売されている。」と述べた。(24日付ニュー・ビジョン紙)
- ウガンダからの酪農製品の輸出は、10年前の年間2億5,000万リットルから25億リットルとなる増加を記録した。関係者は、「粉ミルク、ヨーグルト及びアイスクリームといったウガンダの乳製品は、特にルワンダ、コンゴ(民)及び南スーダンといった市場を席卷している。」と述べた。(30日付ニュー・ビジョン紙)

(別紙)2018年7月主要経済指標(ウガンダ中央銀行)

・ウガンダ・シリング為替相場@1米ドル:3,760.4シリング(前月3840.5シリング)



・インフレ率(前期比年率):3.1%(前月2.1%)



・政策金利:9.0%(前月:9.0%)

